

# 令和7年度第2回 播磨町都市計画マスタープラン 及び立地適正化計画検討委員会 議事要旨

日時：令和7年11月10日（月）13：30～15：00

場所：播磨町役場 第1庁舎3階 302会議室

出席者：

（委員）

太田 尚孝、佐伯 亮太、大瀧 金三、木村 晴恵、坂上 哲也、松井 廣司、久保田 洋平

（事務局：都市計画課）

課長 安立圭一、計画調整担当課長 岡本光嗣、課長補佐 平郡健資、

計画調整係主査 中村瑛、計画調整係主事 前田祥吾

## 1. 開会

## 2. 出席状況報告

（委員7名全員が出席され、当委員会設置要綱の規定により、本日の委員会が成立している旨報告）

## 3. 報告事項

（1）令和7年度各種会議主要意見と対応方針について

（事務局説明 資料2）

○会長

- ・ただいまの説明について、意見・質問があればお願いしたい。

○委員

- ・あえのはま広場の扱いについて、沿岸部はどう整理しているのか。

○事務局

- ・素案 p133「都市環境の方針」の最後に、あえのはま広場を位置付けている。

○委員

- ・うみえーる広場の写真について、広場は噴水部分が中心となっており、海とフットサルコートの写真では全体の雰囲気が見えにくい印象がある。

○事務局

- ・今回は噴水と体育館が写る写真を掲載していた。
- ・うみえーる広場を紹介するにあたり、海を含めた広場全体のイメージを想定している。

○委員

- ・海を見せたい意図は理解できるが、広場全体の雰囲気が伝わる写真の方が適切ではないかと感じた。

○事務局

- ・誰もが遊べる広場のイメージを伝えるという観点から、身近な雰囲気の写真を選んでいたと思う。選定については改めて検討したい。

○会長

- ・特に質問がなければ、協議事項（１）「播磨町都市計画マスタープラン（立地適正化計画）の素案」について、事務局より説明をお願いしたい。

#### 4 協議事項

（１）播磨町都市計画マスタープラン（立地適正化計画）の素案について

（事務局説明 資料１、当日追加資料１）

○会長

- ・第１回検討委員会からの主な修正箇所や、新たに記載した箇所について説明をいただいた。
- ・まず、そもそも「なぜ立地適正化計画をつくるのか」というところを改めて確認したい。なぜ今、都市計画マスタープランの改定を行うのか、その理由についても含めてもう一度説明していただきたい。

○事務局

- ・播磨町としては、土山駅北のまちづくりなど、都市計画事業が今後本格的に動いていくタイミングにあるが、そのときに場当たり的に進めるのではなく、計画的にまちづくりを進めていく必要がある。
- ・また立地適正化計画策定により、今後実施する都市計画事業で国の補助金を有利に活用できるメリットもある。
- ・都市計画マスタープランと立地適正化計画を一体的にするかどうかについては、進行管理の観点から考えることが重要と思われた。都市計画マスタープランがある中で、立地適正化計画が別の方針を示すとブレが生じるかねないため、都市計画マスタープランを最上位計画として位置付け、その中に立地適正化計画を包含することで、一体的なまちづくりの方針として進めていきたいと考えている。
- ・令和７年９月の町議会の一般質問でも、コンパクトな町である播磨町でわざわざ立地適正化計画をつくる必要があるのか、という趣旨の質問があった。その際には、都市機能誘導区域・居住誘導区域を指定することで、都市再生整備計画や各種補助金等の活用が可能になる、といったメリットを説明している。
- ・立地適正化計画を設定することで、都市整備の事業展開には時間がかかるものの、中長期的には行政運営のコスト削減にもつながっていくと考えている。今、町としてなぜこの計画をつくるのかという点については、こうしたメリットを十分に発揮できると認識している。

○委員

- ・人口が減少していく中で、どのように人口を維持していくかが重要だと考えている。
- ・計画では「居住誘導区域の人口を維持する」といった表現になっているが、社会全体で人口が減少する状況において、居住誘導区域の人口を維持するとはどういうことを指すのか、そのイメージをもう少し聞きたい。

#### ○事務局

- ・これまでの会議でも示している通り、国勢調査の推計上は、一定期間は人口維持が可能だと見込んでいるが、その後の状況については、推移を見ながら判断していく必要があると考えている。

#### ○会長

- ・都市計画に関わる委員会として、「播磨町をこれからどうしていく必要があるのか」「なぜこの計画が必要なのか」といった根本的な問いを持ちながら議論してほしいと考えている。計画をつくること自体に意味があり、10年、20年先には今の規模からは想像できない変化が起こる可能性もある。国の補助金活用という側面に加え、この計画を通じて、まちの課題やポテンシャル、将来像を整理し、「きっかけ」としてアナウンスしていく効果も期待している。
- ・もともとコンパクトな町ではあるが、仮に人口密度が維持できても、人口構成や暮らしの質は変化していく。その意味で、今のうちから予防的に何ができるかという視点が重要だと感じている。駅ごとの役割や地域ごとの方向性を描けたことは成果であり、この計画がなければ生まれなかった議論だとも言える。対話を重視し、住民との距離が近い播磨町の特徴を活かしながら、今後も対話を続けていってほしいと考えている。
- ・そのうえで、今回修正した箇所について、引き続き意見をいただきたい。

#### ○委員

- ・p121、p122の表題では漢字の「暮らし」を用いている一方、p34では「くらし」「暮らせる」などの表記が混在しているように見えるため、全体として統一した方が良いのではないかと感じている。

#### ○事務局

- ・表記については一定の意図をもって使い分けしている。p34は総合計画の文言をそのまま用いており、そこは変更していない。一方で、p121の表題は漢字の「暮らし」の方が適切と判断している箇所がある。ゾーン名などでは、ひらがなの「くらし」を使っているため、どこを漢字にし、どこをひらがなにするかについては、あらためて全体を確認したいと考えている。

#### ○委員

- ・播磨町は自転車でも十分に回れるコンパクトな町だと感じており、その中であえて誘導区域を設定する必要性については、当初からやや疑問を持っていた。今回、都市機能誘導区域を修正した案になっているが、公共交通に関する指標の「2.6/5」という数字だけを見ても、区域の外を含めて実態が分かりにくく、区域内外で公共交通の状況がどう違うのか、数字からイメージしにくい。

#### ○事務局

- ・今回、居住誘導区域とそれ以外のエリアを明確に線引きした。交通空白地があること自体は認識しているが、そこに行政が税金を投じるとしたときの優先順位については、慎重に検討する必要があると考えている。
- ・沿岸部は居住誘導区域に含めているため、公共交通も含めてしっかり検討していきたい。行政として投資の優先度を整理し、重点的に取り組む場所とそうでない場所を分けつつ、住民満足度などの指標も見ながら判断していきたい。

#### ○委員

- ・公共交通に関する住民満足度が2.6という数字は少ないと感じている。「手を尽くしていく」という話はあったが、特に南部ではさまざまな取り組みが進む一方で、交通空白地に関する住民アンケート

などの調査は、まだ十分とは言えない印象がある。こうした計画を描いた以上は、実行段階にもしっかり踏み込んでほしいと考えている。

○事務局

- ・地域公共交通計画の中でも同様の課題を位置付けており、今後も検討を進めながら、地域の皆さんと一緒に取り組んでいきたいと考えている。

○委員

- ・交通環境づくりに関する目標値について、現時点では具体的な数値を定めないという理解でよいから確認したい。

○事務局

- ・目標値は、現状として「現状維持以上」を目指す方向で整理している。

○会長

- ・播磨町は東西軸が明確で、住民のメンタリティや線引きのメリハリには、ある程度やむを得ない部分があると感じている。優先順位をつけることは必要であり、すべてのエリアに同じサービスを提供するのは難しい。採算面から見ても非常に厳しく、今後の大きな課題と捉えている。

○委員

- ・「公共交通」と言ったときに、具体的に何を指すのかという定義が気になっている。町外エリアでは明石市や加古川市の「たこバス」「かこバス」が走っており、むしろ充実している部分もあるため、こうした交通をうまくつないでいく考え方も必要ではないかと感じている。

○事務局

- ・住民アンケートでは公共交通の満足度は低い一方、転入理由では「通勤・通学に便利」という声が多い。庁内アンケートは高齢層の回答が多く、転入者は比較的若い層が多いという結果もある。利便性が高いと感じる層と、不満を感じる層が共存する二面性があると認識しており、バス単体では弱い部分もあるため、公共交通全体の中で位置付けを考えていきたい。

○委員

- ・JR や山陽電鉄があり、若い時期に播磨町に入る段階では便利だが、年齢を重ねて子どもが減ってくると状況は変わってくる。2.6 という数値のままでは良くないと感じており、タクシー券の仕組みなど、何らかの手当ても必要ではないかと考えている。

○委員

- ・タクシーはそもそも担い手が少なくなってきており、公共交通とはまた性質の異なる課題だと感じている。

○事務局

- ・タクシー券を持っても、実際には利用できない場面があることを課題として認識している。公共交通には多くの関係者が存在し、調整が必要な点が非常に多い。
- ・また、「どうしても病院に午前8時に着きたい」といった利用者ニーズが特定の時間帯に集中する傾向があり、そのことが交通サービス側の負担にもなっている。こうした状況や工夫できる点について、対話を通じて地元へ伝えていく取り組みも検討していきたい。
- ・「バスがない」「タクシーがない」という声に対し、単に循環バスを走らせれば済むという問題ではないと捉えており、公共交通全体の仕組みとして考えていく必要があると認識している。

#### ○委員

- ・住民側にも、時間を少しずらせば行けるにもかかわらず不便さを訴える部分があると感じている。そのうえで、行政として「ここまで考えている」という姿勢を住民に示す場づくりが重要だと考えている。

#### ○会長

- ・公共交通は都市計画マスタープランの中で最も中心となるテーマではないかもしれないが、非常に重要な分野であると認識している。全国的な公共交通の課題と播磨町が抱える課題とでは次元が少し異なる部分がある。
- ・タクシーは利便性が高い反面、利用が特定の時間帯に集中するなどの課題もある。また、駅そのものはしっかり整備されている一方、駅から自宅、自宅から駅といった「ラスト1マイル」の部分で状況が大きく異なる。
- ・今後、播磨町として本当にどの箇所が必要なのかを、しっかり見極めていく必要があると感じている。

#### ○委員

- ・地図の内容自体は理解できるが、元図の解像度が悪く読みづらく、特に p128 の南部地域の図が気になっている。
- ・指標についてもいくつか疑問があり、2つ目の指標が「未来永劫」続くとは限らないのではないかと感じている。また、数値を 807 人とだけ示すより、人口に対する割合で示した方が分かりやすいのではないかと思う。
- ・災害危険度の高い場所に実際に居住者がいるのかという点も気になる。さらに、防災訓練参加者数を指標として用いることについても疑問を持っている。

#### ○委員

- ・防災訓練参加者については、当番で仕方なく参加している人や、いわゆる「いやいや参加」の人も多いのではないかと感じている。

#### ○会長

- ・図の解像度については改善してもらうよう、事務局に対応をお願いしたい。
- ・指標に関する指摘は同様に感じており、指標として位置付けるにしても、GIS 等を活用した実態把握が必要だと考えている。

#### ○事務局

- ・防災に関する指標は第6章に位置付けており、庁内の危機管理計画の KPI にも含まれているため、一定の継続性をもった指標として選定している。
- ・防災訓練参加者数については、都市計画の観点からは扱いが難しい側面があるものの、住民にとってイメージしやすい指標として採用した経緯がある。計画公表後、数年で意味を失うような指標ではないと考えているが、本日の議論を踏まえ、あらためて検討したい。
- ・都市計画マスタープランは作って終わりではなく、令和 13 年末には全体見直しの作業に入ることになる。評価指標を固めすぎると柔軟性を欠く面もあるため、バランスを見ながら設定していきたいと考えている。

○委員

- ・今の指標のままで数値が増えなければ意味がないと感じている。防災意識の向上や訓練の継続を目的とするのであれば、その目的に沿った指標が必要だと考えている。

○委員

- ・p57 に自転車ネットワークの記述があるが、将来的には、より具体的な内容として計画に位置付けていく方が良いと感じている。

○事務局

- ・p62 の記述については、「p57 で『～に基づいて』と書くなら、p62 にも具体的に記載すべきではないか」という意見を受けて整理している。令和7年度に自転車ネットワークの計画を進める予定であるが、現時点では十分に具体化できていないため、具体化できる段階になれば p62 へ書き込んでいきたいと考えている。

○委員

- ・南部地域の議論では、地域との対話を進める中で「今は空き家が少ないが10年後には増える」可能性の指摘があったが、その際の対応策については、今の段階から少しでも考えておいた方が良く感じている。個人情報の問題もあるが、空き家になってから所有者の把握が困難になる等遅い面もある。

○事務局

- ・地域との対話の中で、将来的に空き家になりそうな箇所も一定把握できるようにしている。空き家対策についても、引き続き検討を進めていきたいと考えている。

○会長

- ・協議としてはこのあたりで区切りたい。「当日追加資料2」として尼崎市の概要版を付けているが、こうしたイメージで概要版を作成するということにより確認したい。

○事務局

- ・都市規模は大きく異なるものの、「見やすさ」という観点では参考にしている。構成や見せ方など、活かせる部分を取り入れながら、本町の概要版を作成していきたいと考えている。

○会長

- ・事務局から他に説明があればお願いしたい。

## 5. その他

○事務局

- ・令和7年12月8日(月)から令和8年1月7日(水)までの期間でパブリックコメントを実施予定。
- ・その後、いただいた意見等を整理し、次回令和8年2月開催予定の検討委員会において最終案を報告したいと考えている。

○会長

- ・何かコメントがあればお願いしたい。

○委員

- ・今の議論の内容で良いと感じている。今回お示しいただいた2地区の整理も分かりやすかった。また、住民との対話を重視しながら進めている点も非常に良いと感じている。

○会長

- ・本日の会議はこれにて終わりとして。

6. 閉会

以上